

高速道路での逆走対策に関する有識者委員会（第1回）

議事概要

1. 日時 平成27年12月22日（火）10:00～12:00

2. 出席者委員

朝倉康夫委員長、稲垣昇委員、春日伸予委員、鎌田実委員、蓮花一己委員、国土交通省道路局長、企画課長、国道・防災課長、高速道路課長、自動車局技術政策課長、警察庁交通局交通企画課長、東日本高速道路(株)管理事業本部副本部長

3. 議事概要

〈今後の調査、分析について〉

- 高齢者への対策は重要だと考えるが、年齢に関係ない要因で発生している可能性もあるため、背景要因について包括的に分析すること
- 当事者へのヒアリングを含め、逆走に至った詳細な理由を調査すること。時系列的に行動を整理することも有効
- 認知症の専門医にヒアリングし、今後の対策に役立つ情報を収集すること
- 逆走に限らず、認知症患者の全般的な特徴を調査すること
- 物損事故は減少傾向である一方、負傷事故は増加傾向である。逆走発生箇所とクロス集計すれば傾向がみえるのではないか
- 逆走発生原因の「過失」と「故意」の区分について、判断した基準を明確にすること

〈今後の逆走対策の方向性について〉

- ドライバーを正しい方向に誘導するため、HMI※の開発が必要。視野が狭くなっている高齢者や、故意に逆走する運転者の抑制にも繋がると思われる
- ※HMI: ヒューマン・マシン・インターフェース。人間と機械が情報をやり取りするための手段や、そのための装置などの総称。
- 免許取得時に高速道路の教習を受けている高齢者と、そうでない高齢者については、対策を分けて考える必要があるかもしれない
 - 自動運転等の新車への普及には時間を要するため、官民連携会議の中では2020年以降を見据えたロードマップを用意すべき。一方、現在使用中の車両に対して等々を活用した短期的な対策を模索すべき

- 自主的な安全行動ができなくなる恐れがあるため、路側からの警告に依存し過ぎるべきではないと考える
- 高齢者は動体視力が落ちており、標識や路面標示をたくさん設置しても効果があるか疑問
- ドライバ-目線での対策の検討、効果検証が重要
- 標識の誤認等最初の間違いを起こりにくくすることが重要
- 逆走した場合の正しい行動や、逆走車両に遭遇した場合の正しい行動について検討し、その結果をPR すべき
- 高速道路を一般道感覚で利用するドライバ-が多いため、高速の便利さと危険性を合わせてPR すべき
- 最近の休憩施設は、これまで高速道路を使ってこなかった人も利用する機会が増えており、そこでのPR は効果的

〈今後のスケジュールについて〉

- 資料 3 の「全体的な逆走対策の考え方」を成果イメージとして、今後の対策の方向性をとりまとめていくことでした承
- 官民連携会議への朝倉委員長のご出席に関して了承

以 上